

麻しん（はしか）患者の発生について

4月28日（月）、市内の医療機関から名古屋市保健所に情報提供があり、名古屋市衛生研究所が遺伝子検査を実施したところ、4月29日（火）に麻しん陽性であることが判明しました。

本市が患者の疫学調査を実施したところ、周囲へ感染させる可能性のある時期に、公共交通機関（タクシー）を利用していたことが判明しました。

麻しん（はしか）ウイルスは空気中に残存したウイルスから2時間程度は感染力があるといわれています。

患者降車後の当該交通機関（タクシー）を以下の時間帯に利用された方で、利用後10日前後経ってから、麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に電話連絡のうえ、医療機関の指示に従い受診してください。

また、移動の際は、周囲への感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

1 患者降車後2時間程度内に利用された公共交通機関（タクシー）について

利用日時	利用した区間
令和7年4月28日（月） 午前10時16分～10時26分	名古屋市南区中割町2から 名古屋市南区松池町2まで

※ 公共交通機関への問い合わせは、慎んでいただきますようお願いします。

※ 現時点においては麻しん患者が利用した公共交通機関を利用しても感染の恐れはありません。

2 患者について

患者の概要： 20歳代 女性 麻しん予防接種歴なし 海外渡航歴あり

経 過 等： 4月14日 飛行機でベトナムから帰国

4月23日 発症（嘔吐、下痢）

4月25日 発症（発熱、眼脂）

4月28日 公共交通機関（タクシー）を利用し医療機関（南区）受診

4月29日 名古屋市衛生研究所による遺伝子検査の結果、陽性と判定

※ 1の方以外で、感染可能期間中に患者と接触したことが判明している方には直接注意喚起を行っています。

3 麻しん（はしか）について

感染すると、10日から12日程度の潜伏期間を経て、**38℃前後の発熱**が2～4日続き、咳や鼻水といった**風邪のような症状**が出ます。その後、**高熱**（多くは39℃以上）が出るとともに、**発疹**が出現します。症状は7～10日で回復します。

空気感染、飛沫感染、接触感染によりヒトからヒトに感染します。感染力は非常に強く、

感染する期間は発症の1日前から解熱後3日頃までとされています。免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症すると言われています。

なお、ワクチン接種歴がある場合等は、上述したような典型的な麻しんの症状を示さず、一般的に軽症で、感染力も典型的な麻しんと比較すると弱いと言われています。

4 注意喚起

現在、麻しんは東南アジアやアフリカなどで流行しており、帰国後に麻しんと診断された報告例も増えています。流行地へ渡航を計画している方は、り患歴や予防接種歴を確認していただき、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。

旅行地域から帰国後、体調不良がある場合には速やかに医療機関を受診し、医師の指示に従ってください。

- ① 海外渡航前は、渡航先でどんな感染症が流行しているか確認しましょう。
- ② 海外渡航前は、自身が麻しんに感染したことがあるか、予防接種を受けたことがあるか確認しましょう。

(上記が分からない場合)

海外渡航前に医療機関で麻しんの抗体価を測定することや予防接種を受けることが推奨されます。

- ③ 海外渡航後に体調不良になった場合は、医療機関に「いつ、どこへ渡航し、どんな症状が出ているか」を伝えたくて受診しましょう。

5 参考

今回の麻しん患者の発生で、令和7年の報告数は本市内では2例目になります。

報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護や人権尊重等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段の御配慮をお願いします。